



参考図書：岡山のブドウ
著者発行者 岡本五郎教授

農用ビニールフィルムの利用

部分被覆（トンネルメッシュ）の工夫

古都宿の田中宏美さんは昭和44年（1969）頃に鉄線を用いてかまぼこ型のトンネルメッシュを手作りし、ポリエチレンフィルムで花穂（果房）を中心とする結果枝の基部から先の約1m範囲だけを被覆する方法を開発した。

当時、建設された山陽新幹線の橋脚作成に用いられたコンクリートを流し込む鋼線枠にヒントを得て、鉄線の溶接は専門業者に依頼した。

このアイデアは非常に優れたもので、並行主枝の短梢選定樹にはピッタリの簡易被覆方式であった。

翌年、岡山製線（株）が古都園芸協会と共同で、かまぼこ型の棚上樹被覆用のトンネルメッシュを開発し試用した。

その結果、晩腐病の予防のみにとどまらず黒痘病の予防、低温時の花振り防止などにも効果があることが明らかとなり、県内外に急速に普及した。

このトンネルメッシュによる部分被覆は、さらに黒痘病、灰色カビ病、ウドンコ病などに弱いベリーA やネオ・マスカットの栽培を可能にし、県下の露地ブドウ栽培の発展に大きく貢献した。

さらに、その後のピオーネの大発展にも必需品として広く用いられた。

岡山の露地ブドウを支え続けた「アイデア商品」であり、県知事表彰を受けた。

